

人間発達教育科学研究所 構成メンバー

所長：教授 大森美香(健康/臨床心理学)

教員：准教授 上原 泉(発達心理学)

助教 今泉 修(認知心理学)

特任講師 内海緒香(教育心理学)

研究員：

教授 岩壁 茂(臨床心理学)

教授 大森正博(消費者経済学)

教授 小玉亮子(教育学)

教授 坂元 章(社会心理学)

教授 坂本佳鶴恵(文化社会学)

教授 浜口順子(保育学)

教授 浜野 隆(教育開発学)

教授 富士原紀絵(教育方法学)

准教授 石丸徑一郎(臨床心理学)

准教授 大多和直樹(教育社会学)

准教授 刑部育子(幼児教育学)

准教授 高橋 哲(臨床心理学)

准教授 山田美穂(臨床心理学)

講師 武藤世良(教育学)

助教 齊藤 彩(発達心理学)

助教 砂川芽吹(臨床心理学)

助教 辻谷真知子(保育学)

助教 松島のり子(幼児教育学)

連携研究員：

特任准教授 山岸由紀(学校教育研究部)

講師 岡田了祐(教学IR教育開発学修支援センター)

教諭 葎内ありさ(附属高等学校)

教諭 大塚みずほ(附属中学校)

教諭 岡田泰孝(附属小学校)

教諭 杉浦真紀子(附属幼稚園)

保育士 中澤智子(いずみナーサリー)

主任保育士 内野公恵(文京区立お茶大こども園)

客員教授：

神尾陽子(小児神経医学)

菅原ますみ(発達精神病理学)

客員研究員：

西村直之(精神神経薬理・医学)

宮里暁美(保育学)

事務局：

特任アソシエイトフェロー 山崎洋子(臨床心理学)

特任アソシエイトフェロー 松本聡子(環境心理学)

アカデミックアシスタント 猪股富美子(メディア社会学)

◆お茶の水女子大学では、人間の発達段階に即した心身の健康と生活環境の向上を意図したイノベーションを実現する教育研究拠点として、本学のこれまでの教育研究の実績や人材育成の経験を活かし、更に発展させるよう、総合的、国際的な研究・教育活動を行うことを目的とした「ヒューマンライフイノベーション開発研究機構」を、2016(平成 28)年に開設しました。本機構は、「ヒューマンライフイノベーション研究所」と「人間発達教育科学研究所」の2つの研究所で構成されています。



お茶の水女子大学 人間発達教育科学研究所 Institute for Education and Human Development



健やかで活力ある人生を送るために
子ども期からの「しあわせ」を考える
—人間発達教育科学研究所による
研究と実践—

<http://www-w.cf.ocha.ac.jp/iehd/>

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

お茶の水女子大学 アカプロ棟 203 室

人間発達教育科学研究所 事務局

Tel&Fax: 03-5978-5539

E-mail: info-iehd@cc.ocha.ac.jp

URL: <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/iehd/>

目的

本研究所は、本学の人間発達科学をテーマとする学内教員を組織し、人間の発達と教育に関する総合的、国際的な研究拠点を構築することをめざして、2016年4月に設置されました。

人間発達に関する基礎研究と実践研究・臨床研究を結びつける中から、革新的・効果的な成果発信と提言を行ない、子ども達の教育的・社会的格差の解消を志向する研究などを含め、少子化を質的・量的に改善する施策や、子どもから青年期以降までの発達の質の向上に向けた施策の策定に貢献することを目標としています。本研究所の前身は、2002年4月に学内措置センターとして設置された「子ども発達教育研究センター」で、現在は、本学「ヒューマンライフイノベーション開発研究機構」傘下の研究所として、本学内外の研究・教育者の協力を得ながら、右記のような領域の研究活動を行なっています。

組織と研究内容

「保育・教育実践研究部門」の研究事業

乳幼児期の保育・教育の質向上、保育者の資質・能力育成、地域子育て支援の開発に関する研究を統合的に、学内の乳幼児施設(附属幼稚園、こども園、ナーサリ)を初め、地域との連携も図りながら推進し、乳幼児教育カリキュラムおよび社会人プログラムの開発、評価および発信を行ないます。

また、子どもの実態や国内外の教育政策に関する動向を踏まえた現代的課題にこたえる教育方法のあり方の研究を進めるとともに、初等・中等・高等教育の各学校段階の接続を有効にするシステムやカリキュラムの開発・研究を大学と連携し附属学校園を中心に行ないます。特に、平成30年度から「連携研究員」を新たに設置し、お茶の水女子大学学校教育研究部のミッションを引き継ぎつつ、本学独自の研究・教育活動をすすめていきます。

「人間発達基礎研究部門」の研究事業

発達追跡研究

子ども期の家庭の経済的状況、家族関係、メディアなどの養育環境が子どもの健康や発達、クオリティ・オブ・ライフ(QOL)に及ぼす短期的・長期的な影響に関する追跡研究、思春期・青年期の健康行動の発達など心身の健康や発達に関する基礎的研究を展開します。

教育的・社会的格差研究

子どもへの保育や教育にあらわれる格差とその発達への影響に関する長期追跡研究、教育格差に関する国際比較研究を実施します。生涯発達に及ぼす社会的格差の問題について検討を行ない、子ども達の教育的・社会的格差の解消に向けた提言を行ないます。

「発達臨床支援研究部門」の研究事業

発達障害(自閉症スペクトラム、注意欠如多動症など)を有する子どもや青年への支援に関する調査研究をはじめ、支援が求められる家庭や地域、福祉や教育の現場などに実際に関わりながら、そこに生きる人々を支援するプログラムやコンサルテーション技法などの介入方略や理論を検討していきます。

◆研究所主催のセミナーやシンポジウム、学術論文・著書等研究成果については以下サイトにて随時公開しております。

<http://www-w.cf.ocha.ac.jp/iehd/>

人間発達教育科学研究所の取り組み

健やかな育ち

健やかで活力と意欲ある子どもたちの育成

- 【研究テーマ例】
- ① 保育の質の向上(認定こども園・ナーサリ・幼稚園)
 - ② 養育格差および教育格差の是正
 - ③ 子ども健康・発達に与えるメディアの影響性の解明
 - ④ 発達障害児への対応策の提案

活力ある暮らし

QOLの向上と健康寿命の延長

- 【研究テーマ例】
- ① 親のメンタルヘルスの健全維持、良好なワークライフバランス等ベアレンティングのあり方に関する提案
 - ② 臨床支援プログラムの開発
 - ③ 成人期前期の社会的格差に関する社会科学的解明

ポジティブエイジングを目指して健康長寿を実現

- 【研究テーマ例】
- ① 高齢者の生活環境の改善に関する提言
 - ② 祖父母世代の次世代育成機能の解明
 - ③ 中高年期の社会的格差に関する社会科学的解明

元気な老い